

O-1-6-22

インプラント手術における安全管理教育の効果
—教育介入前後比較による検討—○佐藤 宏美¹⁾, 奥寺 俊允¹⁾, 三浦 舞¹⁾, 橋口 華人¹⁾, 安齋 聡¹⁾, 岡 吉孝¹⁾, 洪 性文²⁾, 安齋 崇³⁾¹⁾ 東京形成歯科研究会, ²⁾ 日本インプラント臨床研究会, ³⁾ 順天堂大学医学部耳鼻咽喉科学講座

Effect of safety management education in implant surgery: a pre- and post-intervention comparative study

○SATO H¹⁾, OKUDERA T¹⁾, MIURA M¹⁾, HASHIGUCHI H¹⁾, ANZAI S¹⁾, OKA Y¹⁾, HONG S²⁾, ANZAI T³⁾¹⁾ Tokyo Plastic Dental Society, ²⁾ Clinical Implant Society of Japan, ³⁾ Department of Otorhinolaryngology Juntendo University Faculty of Medicine

I 目的: 高齢化に伴い全身疾患を有する患者へのインプラント治療は増加しており, 安全な手術遂行のためには術者のみならず歯科衛生士や歯科助手を含めたチーム全体での安全管理および全身管理への理解が重要となる。しかし歯科医療従事者を対象とした体系的な安全管理教育の機会は十分とは言えない。そこで本研究ではインプラント手術における安全管理教育セミナーを実施し, 教育介入前後における理解度および心理的不安の変化を検討した。

II 材料および方法: インプラントの講習会受講者のうち, 事前及び事後アンケートの両方に回答した20名(歯科医師3名, 歯科衛生士12名, 歯科助手5名)を対象とした。全身疾患とインプラント治療, 服薬状況, バイタルサイン, 生体モニタの使用について講義を行いバイタル測定, 心電図装着および酸素投与に関する実習を実施した。理解度は5段階評価(1: 全くできない, 全く理解していない～5: 十分にできる, 十分に理解してる)で評価し, インプラント手術時の全身トラブルに対する不安についても調査した。

III 結果: 受講前は多くの項目で理解度2と理解度3の回答が中心であり, 全身疾患把握では90%, 服用薬把握および全身状態が治療に与える影響の理解では85%を占めていた。また, 生体モニタ使用およびAED・酸素・救急薬品の理解では, 理解度1～理解度2の回答が55%を占めていた。セミナー後には理解度4～理解度5の回答が増加し, 全身疾患把握では10%から75%, 服用薬把握では15%から65%, バイタルサイン理解では30%から75%, 生体モニタ使用では20%から90%, 酸素・救急薬品の理解では20%から65%, 緊急時役割分担の理解では5%から55%へ改善を認めた。またインプラント手術に対する全身トラブルへの不安は, セミナー前には90%が不安を感じていたが, かなり不安と回答した割合は50%から15%へ減少した。

IV 考察および結論: インプラント手術における安全管理教育は, 歯科医療従事者の安全管理および全身管理に対する理解向上に有効でありインプラント手術に対する心理的不安の軽減にも寄与する可能性が示唆された。安全なインプラント治療を実践するためには術者のみならずチーム全体での安全意識の共有が重要であり, 歯科医療従事者を対象とした体系的教育の必要性が示された。(本研究は匿名アンケートによる調査であり研究参加について対象者から同意を得て実施した。倫理審査委員会番号17000114承認 承認番号T26105)